

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【小学校・国語科】

平成17年5月

栃木県総合教育センター

本センターでは、平成16年7月、県内の公立小・中学校（小144校、中114校）を対象として、教育課程実施状況調査を実施しました。調査にあたっては、国が平成15年度に実施した同調査の調査票（ペーパーテスト及び質問紙）を複製使用し、小学校では第6学年を対象に第5学年段階の内容の調査を、中学校では第3学年を対象に第2学年段階の内容の調査を行いました。

今年度、調査結果及び調査結果を踏まえた学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめ、「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」シリーズとして、3回に分けて発行する予定です。各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

1 国語科の調査結果

○ 調査結果の主な特色

< ペーパーテスト調査 >

- 本県の通過率は、全国の通過率とほぼ同程度であると考えられる。
- 領域及び言語事項ごとの通過率の平均では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」いずれについても、全国の通過率の平均とほぼ同程度であると考えられる。
- 「読むこと」では、目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる問題(6問)において、すべての通過率が全国を上回っている。
- 「言語事項」については、本県の通過率が全国の通過率を5%以上、上回っている問題が8問ある。また、全国の通過率との差を「2%以上」にまで広げてみると、「言語事項」には2%以上、上回っている問題が 32 問中 17 問ある。内容ごとにみると、「対義語」を理解する力は身に付いているが、漢字の書きの問題には、通過率が全国を下回っているものもある。

< 質問紙調査 >

- 本県及び全国のいずれの結果においても、約9割の児童が、「国語の勉強は大切だ」について「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答している。一方、「国語の勉強は好きだ」については、約6割の児童が、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答している。
- 国語科で勉強した内容では、「説明や発表をすること」、「文学的な文章を読むこと」について、それぞれ約3割の児童が「好きだ」と回答しており、全国と同様の傾向がみられる。
- 「国語の授業がどの程度分かりますか」については、「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と回答した児童は、本県では 75.5%、全国では 72.6%と、ほぼ同程度である。

○ ペーパーテスト調査の結果から

通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
80.7%	78.7%	2.0%	79.8%	0.9%

* 通過率は、問題ごとの正答、準正答の合計を解答者数の合計で割った数値。

* 通過率の平均は、3種類の問題冊子の各問いの通過率の合計を、総問題数(60)で割った数値。

* 設定通過率は、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値。

領域・事項ごとの通過率の平均の比較

領域・事項 \ 通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
話すこと・聞くこと	81.3%	79.4%	1.9%	75.9%	5.4%
書くこと	74.4%	73.2%	1.2%	75.6%	-1.2%
読むこと	65.3%	62.9%	2.4%	72.8%	-7.5%
言語事項	86.3%	84.2%	2.1%	84.2%	2.1%

領域・事項 \ 通過率	問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、上回っている問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、下回っている問題数
話すこと・聞くこと	11	2 (5)	0 (2)
書くこと	8	0 (3)	0 (0)
読むこと	9	1 (5)	0 (0)
言語事項	32	8 (17)	1 (4)

前回と同一問題（19問）の通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の平均	前回の全国の通過率	設定通過率
89.8%	87.8%	87.3%	83.4%

領域・事項 \ 問題数	問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、上回っている問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%(2%)以上、下回っている問題数
話すこと・聞くこと	4	0 (0)	0 (2)
書くこと	3	0 (0)	0 (0)
読むこと	0	0 (0)	0 (0)
言語事項	12	5 (7)	0 (0)

出題方式ごとの通過率の平均の比較

領域・事項 \ 通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
記述式(6問)	62.1%	61.3%	0.8%	61.7%	0.4%
準記述式(13問)	83.3%	82.6%	0.7%	85.8%	-2.5%
選択式(41問)	82.6%	80.0%	2.6%	80.6%	2.0%

・準記述式とは、漢字の読み書きと、表現を文中からそのまま抜き出して解答する問題のこと。広義には記述式に含むが、国立教育政策研究所の報告書では記述式に含めていないため、ここでは区別して示した。

本県の通過率が全国の通過率を上回った問題（上位2題）

本県の通過率	58.6%	全国の通過率	50.7%	差	7.9%
--------	-------	--------	-------	---	------

【出題のねらい】

- ・目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。（C読むことⅠ）
- ・必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。（C読むことオ）

次の文章は読書について説明したものです。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

（本文省略）

二 この文章では、読書のよさを分かりやすく伝えるために、第6段落で書き方を工夫しています。どのような工夫をしているか、次の中から一つ選んで、その番号を□の中に書きましょう。

- 1 読書のよい点だけをあげること、読書の大切さやすばらしさを強調している。
- 2 読書の不十分さを述べることで、実際に体験することの大切さを強調している。
- 3 体験することのよさと比べることで、読書のよさをいっそう強調している。
- 4 これまでのことを短く分かりやすく整理して、文章をまとめようとしている。

正答

3

本県の通過率	80.0%	全国の通過率	72.9%	差	7.1%
--------	-------	--------	-------	---	------

【出題のねらい】

- ・自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。（A話すこと・聞くことウ）

全国各地の方言を調べる学習でまさ子さんたちの班では、の「班ごとに計画を立てる」ことになり、ノートに話し合うことがらをメモしました。（ア）に入るものはどれでしょう。次の中から一つ選んで、その番号を□の中に書きましょう。

「まさ子さんたちのノート」

班ごとに学習計画を立てる。

○ どのような方言を調べるのか。

○ （ア）

○ 調べるぶんたんはどうするか。

計画にしたがって調べてまとめる。

- 1 どうして方言が生まれたか。
- 2 発表の時の司会はだれがするか。
- 3 どのような方法で調べるか。
- 4 調べたことすべてを発表するか。

正答

3

（一部改編）

本県の通過率が全国の通過率を下回った漢字の読み書きの問題（主なもの）

(3)の本県の通過率	77.6%	全国の通過率	82.0%	差	-4.4%
(5)の本県の通過率	49.3%	全国の通過率	55.0%	差	-5.7%

【出題のねらい】

- ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使つとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。（言語事項（１）ア（ア））

次の文の（ ）部を漢字に直して、
□の中に書きましよう。

(3) やくそく を守る。

正答

4年 約束

(5) 自分で はんたん する。

正答

5年 判断

本県の通過率	81.7%	全国の通過率	85.8%	差	-4.1%
--------	-------	--------	-------	---	-------

【出題のねらい】

- ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使つとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。（言語事項（１）ア（ア））

次の文の（ ）に入る漢字を
□の中から一つ選んで、その
番号を□の中に書きましよう。

(2) トラックに荷物を（ ）む。

正答

2

3	2	1
責	積	績

前回との同一問題のうち、本県の通過率が前回の全国の通過率を最も上回った問題

本県の通過率	93.5%	全国の通過率	91.9%	前回の全国の通過率	83.1%
--------	-------	--------	-------	-----------	-------

次の文の部を漢字に直して、
 の中に書きましょう。

(1) みんなで きょうりよく
 しましょう。

正答

4年 協力
 1年

【出題のねらい】

- ・当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使ったともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。(言語事項(1)ア)

前回との同一問題のうち、本県の通過率が前回の全国の通過率を最も下回った問題

本県の通過率	43.9%	全国の通過率	47.0%	前回の全国の通過率	50.1%
--------	-------	--------	-------	-----------	-------

この学級で話し合われている話
 について、あなたはどのように考
 えますか。経験したことなどから理
 由をあげて、話し合いに参加するつ
 もりで、自分の意見を次のげんこう
 用紙に百字ぐらいで書きましょう。

なお、読み返して文章を直したい
 ときは、二本線(＝)で消したり、
 行間に書き加えたりしてもかまひ
 ません。

(原稿用紙 省略)

【出題のねらい】

- ・考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。(A話すこと・聞くことア)
- ・自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。(A話すこと・聞くことウ)

○ 児童質問紙調査(意識調査)の結果から

* 数値は、質問に対して回答した児童の割合を表す。

* 本県の結果は、平成 16 年 7 月に 6 年生で実施したもの。

全国の結果は、平成 16 年 2 月に 5 年生で実施したもの。

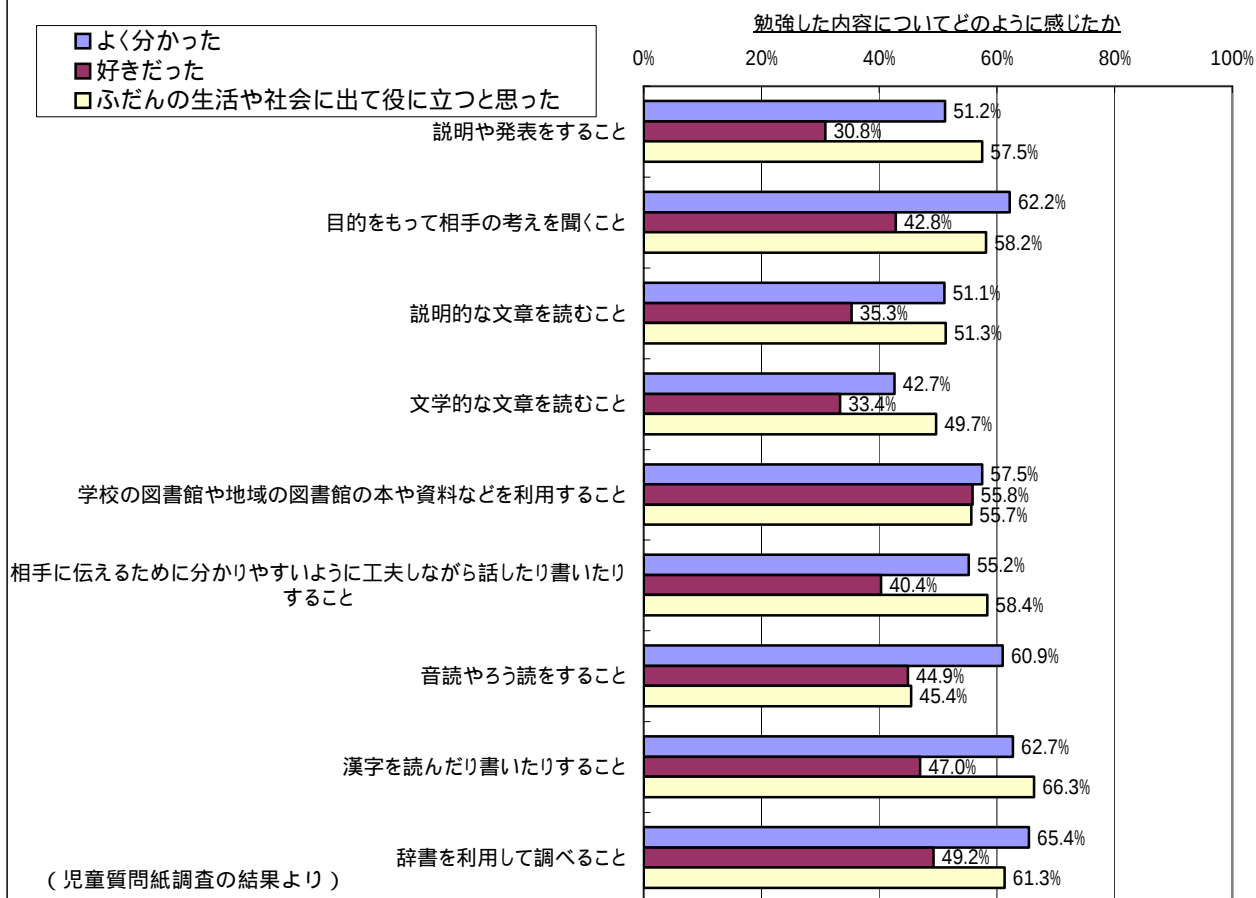
国語科の勉強に対する意識		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	分らない
国語の勉強が好きだ。	本県	23.1%	38.0%	22.4%	11.6%	4.5%
	全国	21.8%	36.7%	23.3%	13.4%	4.4%
国語の勉強は大切だ。	本県	57.6%	31.3%	5.2%	2.6%	2.6%
	全国	54.9%	32.9%	5.7%	2.9%	2.9%
国語を勉強すれば、私は、お互いの 思いや考えをうまく伝え合うこと ができるようになる。	本県	41.2%	34.3%	11.6%	4.7%	7.5%
	全国	39.1%	34.0%	12.3%	5.4%	8.5%

国語科の勉強の理解度		よく分かる	だいたい 分かる	分かること と分らない ことが半 分くらいず つある	分らない ことが多い	ほとんど 分らない
国語科の授業がどの程度 分かりますか。	本県	27.0%	48.5%	17.8%	3.5%	0.7%
	全国	24.3%	48.3%	20.2%	3.8%	1.0%

関心・意欲・態度		楽しい (そうしている)	どちらかといえ ば楽しい (そうしている)	どちらかといえ ば楽しくない (そうしていない)	楽しくない (そうしていな い)
国語の時間に自分の考 えや調べたことを発表す ることは楽しいですか。	本県	19.1%	39.5%	27.9%	12.8%
	全国	19.1%	38.6%	28.3%	13.2%
自分の思いや考えを文 章に書こうと努力してい ますか。	本県	24.5%	39.4%	23.3%	11.9%
	全国	23.4%	41.7%	23.4%	10.6%
学校の図書館などを利用 して、読書をしています か。	本県	32.6%	26.8%	22.6%	17.3%
	全国	26.8%	26.8%	24.5%	21.4%

国語科で学習した内容についての意識

- よく分かった
- 好きだった
- ふだんの生活や社会に出て役に立つと思った



○ 児童質問紙調査とペーパーテストの結果との関連

国語の勉強が、「大切だ」、「役に立つ」などと思っている児童は、ペーパーテスト調査の正答率が高い傾向がみられる。

* 数値は、ペーパーテスト（国語科）の平均正答率を表す。

質 問	選 択 肢			
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
国語の勉強が大切だ。	65.1	61.7	55.5	56.4
国語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会に出て役に立つ。	70.2	67.1	64.5	59.2
国語を勉強すれば、私はお互いの思いや考えをうまく伝えることができるようになる。	69.4	68.1	64.8	62.3

2 国語科の学習指導の改善プラン

調査の結果をもとに、国語科の学習指導において力を入れたい内容について提案します。今回は、「読むこと」の指導に関して「音読指導」を、「言語事項」の指導に関して「漢字指導」を取り上げます。

ペーパーテスト調査の結果からみえた「読むこと」の成果（ ）と課題（▼）

「読むこと」の問題の通過率は、出題された9問すべてが全国の通過率を上回っている。
▼一方、「読むこと」の通過率の平均をみると、設定通過率が72.8%であるのに対して、本県が65.3%、全国が62.9%と、いずれも6割台にとどまっている。

「話すこと・聞くこと」、「言語事項」については、本県及び全国の通過率の平均がいずれも8割を超えており、「書くこと」ではいずれも7割を超えています。それに対して、「読むこと」の通過率の平均は、本県及び全国でも6割台にとどまっています。このような結果から、「読むこと」については、課題があると考えられます。そこで、次に、指導の改善を図るためのプランを示しますので、実践の参考にしてください。

「読むこと」の力を付けるために、音読指導を充実させましょう

いわゆる読解力の向上を図る対策として、自作または市販のテストなどを利用して、テスト問題に繰り返し取り組ませているという方も少なくないことでしょう。日常の授業においても、ドリルの問題を取り入れるなどして、「問題に慣れる」ための指導を取り入れるという声をよく聞きます。「考えを深めようとする」ことの習慣化を図るという意味でも、そうした指導を一層充実させていきたいものです。

その一方で、日常の授業においてはどのような工夫が求められるのでしょうか。例えば、「文章の内容を正確に理解する」、「文章の内容や表現を根拠にして、自分の考えや思いを表現する」ための指導の手だての一つとして、「音読指導」はたいへん効果的です。音読によって文章に読み慣れ、その内容を正確に理解する指導につなげることができます。

1 「音読指導の効果」について理解しましょう

音読指導の効果として、一般に、次のようなことがあげられています。

- ・正しい口形、明瞭で聞きやすい発音・発声を身に付ける指導場面となる。
- ・豊かな言語感覚、日本語の響き、リズムを育てる。
- ・語や文としてのひとまとまりの内容を意識し、文章の意味内容を考えながら読むことができるようになる。
- ・文章を音声化することによって、正しく読んでいるかどうかの自己評価ができる。
- ・何度も繰り返して読むことによって、文章の意味内容を正確に深く読むことができる。
- ・自分の“読み”を伝える音読（表現読み）でコミュニケーション能力が育つ。

まずは、教師自身がこのような音読指導の効果を理解することが大切です。その理解により、子どもにも音読の効果をわかりやすく伝えたり、実感させたり、目的を持って取り組ませたりすることにつなげることができます。

2 教師自身の範読を重視しましょう

教師自身が範読に努めることを通して、音読の効果を実感するようにしたいものです。

よく言われることですが、文脈に即して文章を理解する力を育てるうえでは、教師の範読が何より大切だと考えられるからです。教師の範読は、必ずしも、朗読の専門家のように上手である必要はありませんが、正確に読むことに加え、多少の工夫を心がけるようにしたいものです。例えば、教材指導の目的に即して、人物の心情が伝わるように抑揚を付けたり、筆者の努力や工夫を伝えるために、間の取り方やテンポに配慮して読んだりするように心がけることが大切です。そうした教師の工夫を通して、子どもたちは文章の内容や表現の理解を図っていくことになります。子どもたちだけで音読するにしても、イメージとして残っている教師の範読を繰り返し思い出し、登場人物の心情に思いをはせたり、筆者が述べている内容を理解しようとしたりしていくのです。

音読の第一の目的は、「正確に読む力を付ける」ことにありますが、発達段階が低いときほど、いわゆる「追いかけ読み」や「読み聞かせ」などの体験を通して、言葉の意味を考えたり、言葉のリズムを体感したりする習慣化が図られていくと考えられます。子どもが生き生きと、意欲を持って音読に取り組めるようにするために、教師自身の範読を大切にしていっていただきたいと思います。

3 音読の環境づくりを工夫しましょう

声に出すことの楽しさを味わえるようにするために、次のようなことを参考に、音読の環境づくりを工夫しましょう。すでに、いろいろな工夫をなさっている方は、指導上の大切なことを確認するためにお読みください。

言葉遊びの中で「声を出す」訓練をしましょう

子どもが教室の中で、楽しく声を出せる場面を日頃から設定しておくことが大切です。そのために、教師は「早口言葉」などの言葉遊びや、音読集等を活用した群読など、短時間でできる活動を子どもと一緒に楽しみましょう。その際、伝え合うことによって喜びを感じることを子どもが意識できるようにすることが大切です。こうした経験を積み重ねることで、子どもは言葉の機能を自然と理解していくようになります。

質の高い文章との出会いをつくりましょう

発達段階を考慮のうえで、音読の素材を収集しましょう。教科書に限らず幅の広い分野から質の高い文章を収集し、その中から、子どもと一緒にいろいろな文章を吟味していくとよいでしょう。優れた文を味わう機会が増えることはもちろん、語彙力の向上や、文脈に即して論理的に考える態度の育成にも効果があると考えられます。

繰り返し取り組む習慣化を図りましょう

音読は反復練習が大切です。毎時間、音読の時間を確保して、一人一人がすらすら読めるようになるまで練習したいものです。また、音読カード等を活用して家庭学習も含めて練習できるとよいと思いますが、授業の中ですらすら読めるように自信を持たせることが何より大切です。それによって、家庭学習に取り組む意欲も育ちます。

音読のねらいを子どもに理解させましょう

下に示すような音読のねらいやメリットについて、子どもに分かりやすく説明したり、高学年の場合は、子どもたち自身に音読をするとどんな効果が得られるのか考えさせるようにしたりすることで、音読の学習効果を一層高めることができると考えられます。

○正しい読み方が身に付きます

音読により、正しい読み方が身に付くようになります。特に、新出漢字や新出音訓を使った語句の読みの確かめには有効です。子どもへの説明にあたっては、実際に正しく読めるようになった実感について感想を述べさせたりすると効果的です。

○文章理解が深まります

音読により、文章理解が深まります。音読を重ねることで、語句の意味が文脈の中で明らかになってきます。話し合い活動への意欲も育ちます。また、知らず知らずのうちに暗唱できるようになったりすることを通して、文章表現や作品自体への愛着が生まれ、より高度な内容を理解しようとする態度も育つと考えられます。

そうしたことを実感させる手だてとして、子どもたちが音読を通して好きになった表現を発表したり、ノートや用紙に「視写」したりする学習場面を設けると効果的です。用紙に視写した場合は、教室に掲示するなどして、みんなに紹介する場面を設けるのも一案です。そのような言語活動を踏まえて、音読のねらいや効果について、教師と子どもが話し合うなどして確認するとよいのではないのでしょうか。

○言語感覚が磨かれます

音読は、自分の声を自分の耳で聞きながら読む行為です。その繰り返しの中で、言葉の響きやリズム感などが自然に体感され、言語の意味への興味・関心が高まったり、前後の文脈から言葉の意味を類推できる力が育ったりすると考えられます。

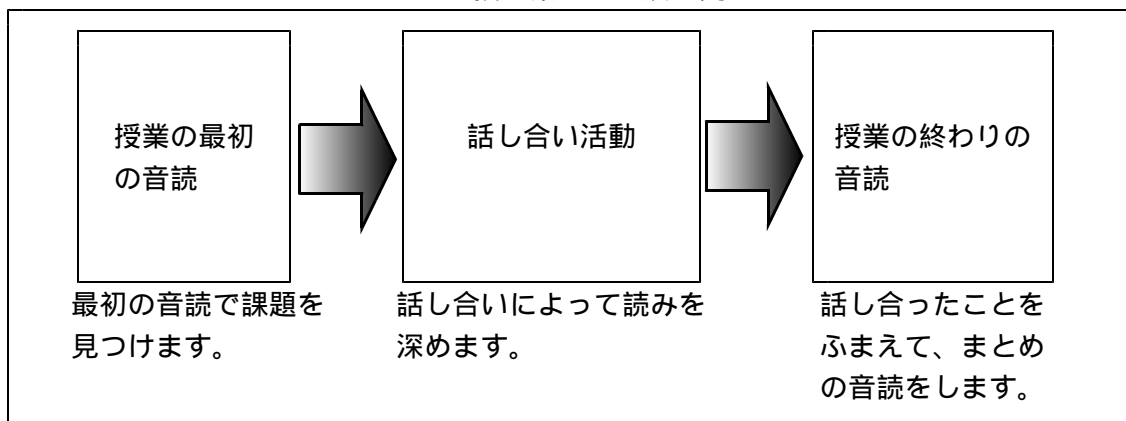
音読をきっかけに興味を持った言葉について調べて発表したり、表現を根拠にして自分の考えを書いたり話したりするなど、「読むこと」に関して広がりのある言語活動が展開できるとよいのではないのでしょうか。

4 音読を生かした話し合い活動で授業を豊かに

～「音読」から「話し合い」へ、「話し合い」から「表現読み」へ～

音読で気付いたことをもとに共通の課題をつくるなどして、話し合い活動を展開してはどうでしょうか。子どもの意欲が高まることでしょう。また、授業の最後にもう一度音読することで、子どもの読みが確かめられます。

授 業 の 展 開



漢字の「読み」の通過率は、全6問のうち、5問が9割を超えている。また、出題の6問すべての通過率が全国を上回っている。

漢字の「書き」の通過率は、全7問のうち、4問が8割を超えている。また、その4問すべての通過率が全国を上回っている。

▼漢字の「書き」の通過率が5割に満たないものが2問あり、「編集」が44.2%、「判断」が49.3%という状況である。

多くの教師が、子どものために様々な工夫をして、漢字の読み書きの指導を行っています。その努力は調査の結果にも表われ、右の表のように、漢字の「読み」全6問のうち5問の通過率が9割を超え、全6問の通過率の平均も95.1%と高い結果となりました。また、漢字の「書き」全7問のうち4問の通過率が8割を超えました。

これらのことから、先生方には、これからも自信を持って漢字の読み書きの指導に取り組んでいただきたいと思います。また、漢字の「書き」の通過率をみると、「編集」が44.2%、「判断」が49.3%と低い漢字もありましたので、これから述べるような方法を参考に、子どもたちの漢字の読み書きの力や語彙力が向上するように、指導の充実を図っていただきたいと思います。

一方、国語科の授業での漢字指導について、先生方からこんな声も聞こえてきます。

漢字の「読み書き」の通過率の状況

「読み」の出題	県	全国	初出学年
保護	98.0%	95.8%	保(5年)護(5年)
移動	97.9%	96.1%	移(5年)動(3年)
日程	87.1%	81.2%	日(1年)程(5年)
混雑	95.7%	92.5%	混(5年)雑(5年)
慣れる	96.1%	93.4%	慣(5年)
許す	96.0%	93.9%	許(5年)
「書き」の出題	県	全国	初出学年
きょうりょく	93.5%	91.9%	協(4年)力(1年)
かならず	83.8%	81.9%	必(4年)
やくそく	77.6%	82.0%	約(4年)束(4年)
つづく	83.3%	82.6%	続(4年)
はんだん	49.3%	55.0%	判(5年)断(5年)
ひさしぶり	80.5%	79.2%	久(5年)
へんしゅう	44.2%	47.8%	編(5年)集(3年)

- たくさんの新出漢字が一度に出てくるので、いつも時間が足りなくなってしまう。
- 子どもが自分で書く文章はひらがなばかりで、習った漢字を使おうとしない。理由を聞くと、「めんどくさいから」と言う。
- 新出漢字の指導で、音訓だけでなく熟語づくりまでやりたいが時間がない。
- 漢字テストがマンネリ化していて、積極的にやろうとしない子もいる。
- 文字が乱暴で、漢字の字形を整えて書こうとしない子もいる。
- 子どもの漢字力に個人差が大きく、個別指導が難しい。など

子どもたち一人一人の実態に即した指導を心がけるほど、このような課題意識を持ちがちですが、今回の成果を踏まえ、各学校で効果をあげている取組を再確認するとともに、指導上の課題と具体策を明確にして、子どもたちのために取り組んでいただきたいと思います。

漢字の「読み書き」の力を付けるために、指導の工夫を図りましょう

1 漢字について指導する時間をきちんと確保しましょう

右の表のように、小学校では6年間で1006字の漢字を習います。学年ごとにみても、習う漢字の数は少なくありませんので、授業の

学年別配当漢字時数

1年	80字	3年	200字	5年	185字
2年	160字	4年	200字	6年	181字

中で意図的・計画的に取り扱っていくことが求められます。そこで、例えば、次のような工夫が必要になるでしょう。

- 授業の中で、ミニ漢字テストなどを実施する時間帯を子どもと相談の上きちんと決めましょう。
- 漢字テストに出題する漢字はあらかじめ知らせておきましょう。このことによって何を練習すればよいか明確になります。
- 漢字の答え合わせの時に、漢字を例示し、その漢字の意味・成り立ち・熟語・音訓などについて身近な例を用いるなどして、解説を加えましょう。子どもが漢字を覚えやすくするための手がかりを示すようにすると、意欲付けになります。
- マンネリ化させないためにテストの形式も時折変えてみることも大切です。

そのほかにも様々な工夫が考えられるでしょう。漢字について指導する時間をきちんと確保し、クラスの実態に合う方法を工夫してください。

2 漢字の定着を確かめましょう

「前の学年」の定着の確認を1学期（前期）に

- 1学期（前期）のはじめに、前の学年で初出する漢字を中心に、漢字の読み書きの定着を確認するテストを行い、どの漢字がまだ身に付いていないのか子どもにも自覚させましょう。高学年の場合は、以後の自主学習のめやすや計画を作らせると効果的です。
- 「前の学年」で習った漢字を使った「熟語表」を配付するなどして、家庭学習に取り組みせましょう。熟語の数の目安などを示して取り組みせ、一定の期間ごとに、確認テストを行うと一層効果的です。

毎時のはじめや終わりに

- 毎時の授業のはじめや終わりに、「新出漢字」を使った語句を確認し、全員や個人で音読したり、視写したり、熟語づくりをしたりするなどして、習熟を図ることが望めます。
- 例えば次に示す例のように、初出が低・中学年の漢字を使用する熟語の中には、高学年の子どもに書かせようと思っても、かなり難しいものもあります。
 - ・サッコンは、異常な事件が多発している。（昨今：「昨」小4、「今」小2）
 - ・大都会ではビルがリンリツしている。（林立：「林」小1、「立」小1）
 - ・クラス対抗リレーに、学級がイチガンとなって取り組む。（一丸：「一」小1、「丸」小2）
- このような語句をはじめ、子どもの日常生活において、「書き言葉」として使用する機械の少ない語句を扱う場合は、教師が具体的な用例を示して説明することが大切です。分かりやす

い言葉に言い換えたり、短文を板書して説明したりするほか、折りにふれて繰り返し取り上げ、声に出して読ませたり、ノートに短文を視写させたりするなどして、「慣れる」機会を設けるようにすることが望めます。学習の意欲が育ってきたら、自ら辞書を使って用例の意味を考えたり、短文づくりを通して使い慣れるようにしたりすると効果的です。

コラム教材の活用

教科書には、いわゆるコラム教材と呼ばれる、主に言語事項に関する 1、2 ページ程度の短い教材があります。それらの教材には、「新出漢字」がまとまって示されていることが少なくありません。漢字の数や量が多い割に、学習にあてられる時間は短いため、それらの漢字の定着が十分に図られないまま次の教材に進むという場合もないとはいえません。

そこで、新しい単元や教材に学習が進んだ後でも、適宜、コラム教材のページにもどり、次のような点に留意して、繰り返し学習することが望めます。

- 漢字や熟語を音読し、「読める」ようになったものをチェックさせましょう。
- 定着率の低い漢字の問題を教師が出題し、ノートに書かせ、「書ける」ようにさせましょう。
- 繰り返し使えるプリントを用意しておくなどして、「習熟」が図れるようにしましょう。

3 漢字や熟語を子どもの日常生活と結び付けましょう

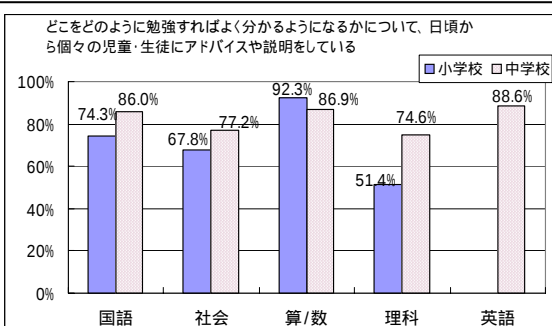
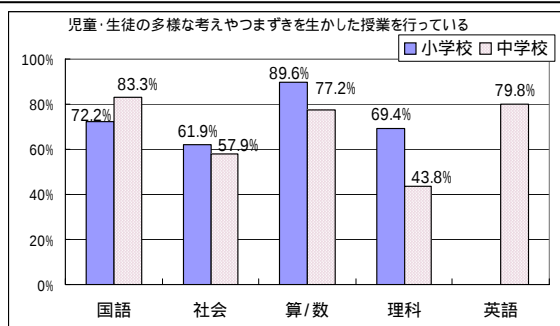
漢字指導にあたっては、子どもが自分の生活に目を向け、身近に使われている漢字や熟語に気付くようにすることも大切です。例えば、「携帯電話」は小学生にも身近な言葉ですが、「携帯」の意味を理解しているとは限りません。また、「携」という漢字を習うのは中学生になってからです。しかし、辞書で引けば、携帯電話とは「身に付けて持ち運びができる電話」だということが理解できます。このように、生活の中で使われている漢字や熟語が持つ意味を考える機会を増やすようにしたいものです。そこで、教師が意図的に子どもの日常生活と結び付けて漢字や熟語の指導をすることが大切になってきます。例えば、漢字テストが単調になってきたら、日常生活の中で使われている熟語や、ニュースで話題になっていることにかかわる熟語などをいくつか出題してみるのも一つの方法です。また、子どもが生活に目を向けて気付いた漢字や熟語を自主学習ノートに書き留めさせたり、授業で取り上げて理解を広げたりするような指導も効果的でしょう。実態に即した指導を心がけ、子どもが自ら漢字を習得していこうとする態度を育てたいものです。

4 漢字を使って書く機会を増やしましょう

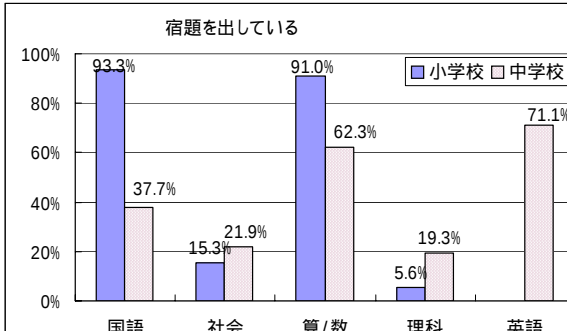
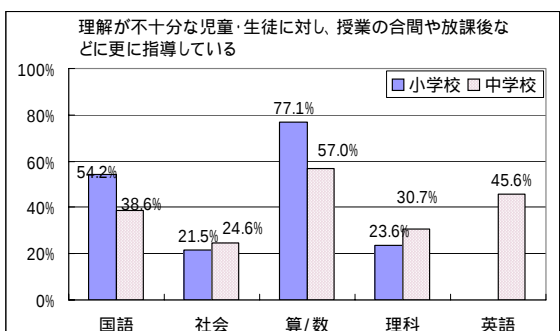
今回の出題のうち、「編集」「判断」といった、子どもの日常生活では使用する機会が少ないと思われる漢字の書きに課題がありました。学習したときには書けるようになった漢字でも、実際に使用する機会がないと、忘れてしまうことも少なくありません。そこで、「今回の作文では、今まで習った漢字をたくさん使ってみよう」とか、「ノートに感想を書くとき、筆者が使っている漢字をみんなもたくさん使って書こう」など、普段の指導にちょっとした工夫を加え、漢字を使って書く機会を増やすようにしたいものです。その際、漢字を使ってきちんと書けた子どもの努力を認める言葉かけが大切でしょう。また、漢字に親しむとともに漢字を使いこなす力を育てるための教育ソフトもたくさん開発されていますので、教師の目を通して選び、活用することも一案です。子どもは、教師や大人とのかかわりの中で、漢字のはたらきやその重要性を実感していくことが少なくないと思われます。漢字を使うことのよさや漢字で表現する知的な楽しみを折にふれて話すなどして、漢字を使いたくなる雰囲気づくりにも努めましょう。

教師の指導の状況

○ 個に応じた指導



○ 基礎・基本や学習習慣を身に付けるための取組



平成16年度 栃木県 教育課程実施状況調査の概要

- 調査実施時期： 平成16年7月1日～7月19日の期間内
- 調査方法： ペーパーテスト調査、児童生徒及び教員に対する質問紙による意識調査
- 調査対象学年： 小学校第6学年、中学校第3学年
- 調査教科：
- ・小学校（第5学年段階の内容）：国語、社会科、算数、理科
 - ・中学校（第2学年段階の内容）：国語、社会科、数学、理科、英語
- 調査問題：
- ・国立教育政策研究所が平成16年2月に実施した「小学校及び中学校教育課程実施状況調査」の複製
- * ペーパーテスト調査については、各教科ともA、B、Cの3種類（ほぼ同程度の内容及び水準）の問題冊子を使用
- 調査学校及び児童生徒数：
- ・小学校：144校 約3900人
 - ・中学校：114校 約3500人

調査結果等は栃木県総合教育センターのホームページ（<http://www.tochigi-c.ed.jp/>）でご覧いただけます。

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【小学校・国語科】

発 行 平成17年 5 月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303